【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第３部門第２区分
【発行日】平成18年11月2日(2006.11.2)

【公表番号】特表2006-508916(P2006-508916A)
【公表日】平成18年3月16日(2006.3.16)
【年通号数】公開・登録公報2006-011
【出願番号】特願2004-533882(P2004-533882)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｋ　31/716　(2006.01)
Ａ２３Ｌ　1/30　(2006.01)
Ａ２３Ｌ　1/305　(2006.01)
Ａ２３Ｌ　1/307　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　3/04　(2006.01)
Ａ６１Ｐ　43/00　(2006.01)
Ａ６１Ｋ　38/00　(2006.01)
Ｃ０８Ｂ　37/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｋ　31/716
Ａ２３Ｌ　1/30　Ｚ
Ａ２３Ｌ　1/305
Ａ２３Ｌ　1/307
Ａ６１Ｐ　3/04
Ａ６１Ｐ　43/00　１２１
Ａ６１Ｋ　37/02
Ｃ０８Ｂ　37/00　Ｇ

【手続補正書】
【提出日】平成18年9月8日(2006.9.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
満腹及び／又は飽満を誘導するかもしくは強めるのに適した栄養的又は製薬学的組成物の調製のための、少なくとも10^5Ｄａの平均モル重量（ａｖｅｒａｇｅ　ｍｏｌａｒ　ｗｅｉｇｈｔ）を有する分枝α－グルカンの使用。
【請求項２】
グルカンが少なくとも８％の分枝度を有する請求項１に従う使用。
【請求項３】
α－グルカンが少なくとも１０％の分枝度を有する請求項２に従う使用。
【請求項４】
α－グルカンが５・10^5～10^8Ｄａの平均モル重量を有する請求項１～３のいずれか１項に従う使用。
【請求項５】
α－グルカンがα（１，４）及びα（１，６）結合を含有する請求項１～４のいずれか１項に従う使用。
【請求項６】

α－グルカンが非－イオン性である請求項１～５いずれか１項に従う使用。
【請求項７】
α－グルカンがスクロースからの酵素的グルコシル転移により製造される請求項１～６いずれか１項に従う使用。
【請求項８】
α－グルカンが１～１０（重量）％の濃度で用いられる請求項１～７いずれか１項に従う使用。
【請求項９】
α－グルカンをタンパク質、特に加工牛乳又は大豆タンパクと組み合わせる請求項１～８いずれか１項に従う使用。
【請求項１０】
７．５重量％α－グルカンの水溶液がｐＨ２において、１０ｒａｄ／秒で測定される、ｐＨ６．８における粘度と比較して少なくとも１．５倍の粘度における増加を示す請求項１～９いずれか１項に従う使用。
【請求項１１】
少なくとも10^5Ｄａの平均モル重量を有する分枝α－グルカン　１～１０重量％及び食物タンパク質　少なくとも１重量％を含有する食物組成物。
【請求項１２】
液体組成物である請求項１１の食物組成物。